



ふれあい119

おにやなぎ保育園幼年消防クラブ結成



平成22年7月28日北上地区に11番目の幼年消防クラブとして結成式を行いました。幼年期より防火に対する正しい考え方を養い、地域に貢献できる大人へと願い、見守って頂ければ幸いです。

住宅防火の取り組み



北上地区消防組合
消防長
菊池 勝

当消防本部では、近年火災による死傷者が増加し、そのほとんどが住宅火災によるものであることから、住宅防火対策として住宅用火災警報器の早期設置を、重点的に推進しています。取り組みについては、各種講習会、防火イベント開催において、広く住民に対し意識の高揚および設置を呼び掛けております。

また、婦人消防協力隊や消防団の協力を得て、住宅用火災警報器の共同購入や高齢者宅等への取り付け支援および普及啓発活動も行われ、その効果は徐々に現れており、自治会単位での共同購入の報告も届いております。

現在当組合の住宅用火災警報器の普及率は30%台と低い状態にあることから、今後より一層地域に密着した活動を行い、住宅防火に対する理解を深め火災の減少と住宅火災による死傷者ゼロを目指し、住宅防火対策の「切り札」である住宅用火災警報器の早期設置を積極的に推進して、安全で安心して暮らせるまちを目指してまいります。

秋季全国火災予防運動

十一月九日～十一月十五日

「消じたかな」あなたを守る 合言葉

◎自主防災組織への資機材交付式

平成22年8月11日消防本部会議室において、(財)岩手県消防協会北上地区支部から自主防災組織に対し「担架」の交付が行われました。

今年度は、北上市10組織、西和賀町2組織へ交付され災害時の負傷者等の搬送や防災訓練に活用されます。

この事業は、(財)岩手県消防協会北上地区支部が平成18年度から実施しており、すべての組織に交付されるまで継続する予定です。



交付式と取扱説明

◎山岳遭難救助合同訓練実施

平成22年7月31日北上市立花展勝地公園内において、岩手県山岳協会、岩手県防災航空隊、北上地区山岳捜索救助隊、及び消防本部合同により負傷者を防災ヘリ「ひめかみ」に収容する訓練を実施しました。この訓練は、当地区内で登山や山菜採りによる遭難及び負

傷事故が多く防災ヘリ「ひめかみ」による捜索や負傷者収容の回数が多いことから、各団体との連携を図り速やかな負傷者等の救助及び搬送をすることを目的に実施されました。



山岳協会隊員と消防隊員で負傷者をヘリ救助地点へ搬送

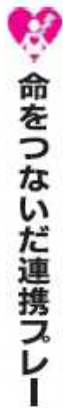
航空隊員による負傷者をヘリに収容する訓練

▽登山などで入山する際の注意△

- ◎体力と経験に応じた無理のない登山計画を作る。
- ◎一人での入山を避け複数で行動する。
- ◎気象情報に注意し、悪化した場合は予想されるときは、すぐに下山する。

◎装備品は十分に考慮し、特に携帯電話、救急用品、非常食、雨具等必ず携行する。さらに、クマや蜂よけのスプレー、鈴などを持参し万が一に備える。

救命リレーで命を救う



命をつないだ連携スレー

6月8日の午後、和賀町煤孫の北上カントリークラブでゴルフプレー中の男性(64)が突然倒れ、心肺停止状態になりました。

ゴルフ場の従業員4名が、通報と心肺蘇生法の実施、そしてAEDを使用した電気ショックを行い、見事な連携プレーで尊い命を救いました。救急隊到着時に男性は脈も呼吸も回復しており、約2週間後に搬送先の病院から元気に退院したそうです。心肺蘇生法を実施した従業員の方は救命講習の受講者でした。

後日、消防組合から北上カントリークラブに感謝状を贈りました。



北上カントリークラブの支配人と救命活動を行った皆さん

救命のバトン「救命のリレー」

「救命のリレー」は、大切な命を救うために必要な行動を、迅速に途切れることなく行う重要性を表しています。

住民、消防、病院の連携をリレーのバトンタッチに例えたもので



- 1、早い一一九番通報
おちついてはっきりと通報する
- 2、早い応急手当
早い心肺蘇生と早い電気ショック
- 3、早い救急処置
救命士等の行う高度な救命処置
- 4、早い救命医療
医療機関における高度な救命医療

今回の事例でも、このバトンタッチが確実に行われ、救命に繋がっています。みなさんも救命のリレーの第一走者として、私達にバトンを渡して下さい。

大切な人の命を救うために救命講習を受講しましょう。

■お問い合わせ

警防課救急係 ☎ 65-5176

～安全・安心はわが家から～



Q なぜ住宅用火災警報器が必要なの？

A 火災による死者は、就寝時間帯の夜10時から翌朝5時に多く、死者の六割が逃げ遅れとなっています。

住宅用火災警報器は、火災の発生をいち早く知らせ、被害を軽減させるために必要なのです。

自治会内の住宅用火災警報器は普及していますか？

地区交流会や年度末の総会等を利用し、共同購入を検討されてはいかがでしょうか？



第〇〇区 防災会議
・住宅用火災警報器普及について



共同購入例

下記のチラシを利用し購入店や金額を決定



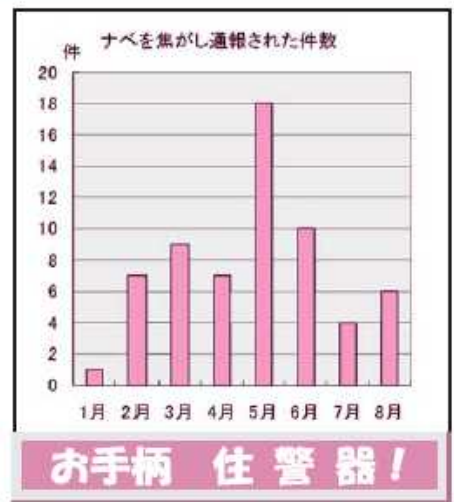
北上地区管内のガス保安協会、電機商業組合、電気工事業組合で取扱いしています。
チラシの裏面に取引店名が記載されていますので最寄りの店舗へご相談ください。
購入から設置まで対応していただけます。

■お問い合わせ 予防課指導係
☎65-5173

幸いにも、警報器の「ピー、ピー」という音に気付き、火災に至らずに済んでおります。まさに「住宅用火災警報器のお手柄」このような状況から、一般家庭でも油断することなく調理中は、その場を離れないことが重要です。火災をいち早く発見するには住宅用火災警報器が有効であり、早期に設置しましょう。

これは煙を感知し、自動的に消防本部に通報される装置で、現在462世帯に設置され8月末現在 117件の通報があり、そのうち約半数の62件がガスコンロにかけたナベを焦がしたのですが、そのほとんどが、その場を離れたり、忘れたためによるものでした。

北上市では高齢者（一人暮らし等）宅に緊急通報装置を設置していますが、このシステムに平成21年12月15日から新たに住宅用火災警報器を台所又は居間に併設しました。



新入署員が消防学校を卒業しました。

今年4月採用の署員7名は、4月6日から9月29日まで6ヶ月間、岩手県消防学校での厳しい訓練を終え、北上消防署に配属になりました。よろしくお願いたします。



(左から) 本間絵里菜・伊東一磨・澤田和也・八重樫元気・消防長・及川祐介・高橋佳史・高橋賢人
(卒業式当日、消防長と一緒のスナップ)

油流出に注意

ホームタンクからの油流出事故が多くなっています。特に多いのは、灯油をポリ容器へ小分け中、その場を離れて容器からあふれさせるケースです。



水路などを通り、河川へ流れ出るとその処理に、消防署・市役所・保健所・警察署が出勤して原因の調査・油の回収・処理にあたります。隣近所へ迷惑をかけるだけでなく、その処理に多額の費用がかかり、その費用は油を流出した人の負担となります。

◆油流出事故を防止するため◆

- ① 灯油をポリ容器へ小分け中は絶対にその場から離れない。
- ② 配管などに腐食や亀裂がないか確認する。
- ③ 定期的にホームタンクの残量を確認する。
- ④ ホームタンクを固定し、転倒しないようにする。
- ⑤ 万が一に備え、防油堤を設ける。

*お知らせ (火災防ぎょ訓練の実施)

11月7日(日)午前7時から北上市和賀町笠松地区で火災防ぎょ訓練が実施されます。

これからの時期は空気が乾燥して、火災の発生しやすい季節です。恐ろしい火災から大切な家族の命を守り、また財産を失わないために、火の取り扱いには十分注意しましょう。